

学校評価の考察

1. 教職員

ほとんどの項目で概ね90%以上が「水準を上回っている」という回答結果でしたが、「ICT教育の充実」で、**31%**が「水準を下回っている」と評価しており、ICT活用の自信のなさが浮き彫りとなっています。

本校では、全生徒にiPadを購入し、その他でもICT機器は十分整備しているが、得手不得手により授業等での活用の場面に大きく差がでる傾向にある。実用的な活用推進研修や積極的に活用している職員を中心としたOJTによる資質向上の工夫等により、ICT教育の充実に努めてまいります。

2. 保護者

ほとんどの項目で概ね90%以上が「良好」という回答結果から、本校の教育にご理解とご協力いただいている様子がうかがえます。

しかしながら、「就業体験を通しての生徒のあいさつ・言葉使い・身なり」や「言葉づかいの指導」で物足りなさを感じている保護者が一定数（**12~15%**）いるため、本校オリジナル「あいさつ・言葉づかいの心得」「あいさつ・返事の練習」を再構築して指導の工夫を図ってまいります。

3. 生徒

ほとんどの項目で概ね90%以上が「良好」という回答結果でしたが、学校の施設・設備に対する「水準を下回っている」が**31%**と突出して悪い評価でした。特にコメントで「寄宿舎の洗濯干し場、トイレの改善・増設」などの声があります。築30年の老朽化した寄宿舎の課題は、日常生活に直結しているため、生徒が身近に感じるストレートな意見だと言えます。今後、学校としても寄宿舎の増改築に向けて積極的に関係課と連携していきたいと思えます。

また、「寄宿舎の日課や起床就寝」への不満（12%）は、おおよそマイペースを尊重してほしいという声のようです。これは、指導する寄宿舎職員と寄宿舎生の両方の歩み寄り（話し合い）が大切だと思えます。舎友会が積極的に課題を取り上げ、寄宿舎生活の改善ができるよう支援したいと思えます。

そして、生徒の体力増進のための週1回「全体マラソン」への不満（**13%**）では、もっと増やしてほしいという意見と反対にやりたくない意見の両方があることから、生徒の声に耳を傾け調和を保ちながら体力増進に努めていきたいと思えます。

最後に「言葉づかいの指導」は不十分（**13%**）で、コメントで「もう少し厳しくしてもいい」「メリハリつけて」との声があります。正しい言葉づかいは就職に有利だと考えます。また、保護者の意見と相通じるものがありますので、本校オリジナル「あいさつ・言葉づかいの心得」「あいさつ・返事の練習」を再構築して指導の工夫を図り、全生徒の就職実現をめざしたいと思えます。

4. まとめ

今回、浮き彫りとなった「本校職員のICT活用力向上」、「寄宿舎増改築に向けた取り組み始動」、「『あいさつ・言葉づかい』指導の再構築」に今後努めてまいります。